

サンバイオ、チーフ・メディカル・オフィサーにビジャン・ネジャドニク医師が就任

当社グループ(サンバイオ株式会社及びその子会社である SanBio, Inc.)は、本日(米国時間 2019年5月14日)付けで、当社グループの開発及び規制担当のチーフ・メディカル・オフィサーにビジャン・ネジャドニク医師(Bijan Nejadnik, M.D.)が就任したので、お知らせします。

同氏は、これまで大手製薬企業の Johnson & Johnson pharmaceuticals や、Jazz pharmaceuticals、Galena Biopharma 及び Eureka Therapeutics などのパイオニア企業でチーフ・メディカル・オフィサー等の要職を歴任してきました。Johnson & Johnson pharmaceuticals では、リウマチ性疾患、自己免疫疾患の治療に使用されるインフリキシマブ(Infliximab; 商標名 Remicade)など主に免疫性及び腫瘍性治療薬の開発を主導しました。Jazz pharmaceuticals では、腫瘍性治療薬において複数製品の生物製剤承認申請(Biologics License Application:BLA)を行い、アメリカ食品医薬品局(U.S. Food and Drug Administration:FDA)及び欧州医薬品庁(European Medicines Agency:EMA)より医薬品の承認を取得しています。Galena Biopharma では、チーフ・メディカル・オフィサーとして、複数のがん免疫療法の研究及びチェックポイント阻害剤と組み合わせた養子 T 細胞療法の研究を主導しました。Eureka Therapeutics においては、チーフ・メディカル・オフィサーとして遺伝子組み換え T 細胞の開発で複数の IND を FDA より取得し、臨床試験の実施に成功しています。このように、同氏は、臨床開発において多様な経験を有する開発の第一人者です。

現在、当社グループでは、日本の慢性期外傷性脳損傷プログラムにおいて、2020年1月期(2019年2月～2020年1月)中に、国内の再生医療等製品に対する条件及び期限付承認制度を活用した再生医療等製品としての製造販売の承認申請を目指しており、グローバルでは慢性期外傷性脳損傷プログラムフェーズ3臨床試験を2020年1月期末までに開始する計画としています。同氏は、まずこれらの臨床開発を承認に導き、さらには今後の当社グループのグローバル展開を推進していきます。

なお、本日までチーフ・メディカル・オフィサーであったダミアン・ベイツ医師(Damien Bates, M.D., PhD, FRACS, MBA)は、今後も当社グループのシニア・アドバイザーとして再生細胞薬 SB623 のグローバル展開に貢献します。

今回の就任を受けて、ビジャン・ネジャドニク医師は、以下のように述べています。「有効な治療法がないアンメットメディカルニーズに応えるために、今まで様々な新薬開発に携わってきました。サンバイオは、中枢神経系疾患の患者様に対する治療薬開発のパイオニア企業です。日本においてはすでに承認申請に向けて準備を進めている SB623 を、グローバルにおいてもできるだけ早く患者様のもとにお届けすることができるよう、自身の過去の経験を活かして全力で取り組む所存です。」

当社代表取締役社長の森敬太は、以下のように述べています。「ビジャン・ネジャドニク医師をサンバイオのチーフ・メディカル・オフィサーに迎え入れることができ、大変嬉しく思っております。国内における慢性期外傷性脳損傷プログラムは、すでに承認申請に向けて準備を進めており、今後はグローバルでの製品化を目指す段階となりました。ダミアン・ベイツ医師の貢献を引継ぎ、SB623 の臨床開発及び承認申請に豊富な経験を有するビジャン・ネジャドニク医師がさらに大きく展開できることを期待しています。」

以上

サンバイオ株式会社及び SanBio, Inc.について

当社グループは、東京に本社、カリフォルニア州マウンテンビューに支社を置く再生細胞薬の研究、開発、製造及び販売を手掛ける再生細胞事業を展開しています。当社独自の再生細胞薬である SB623 は、慢性期脳梗塞を対象にフェーズ 2b 試験、慢性期外傷性脳損傷を対象にフェーズ2試験を実施中です。当社グループの詳細は、<http://www.sanbio.jp>にてご覧いただけます。

本件に関するお問い合わせ先

サンバイオ株式会社
経営管理部
メール:info@sanbio.jp